

令和6年第4回鹿角市議会定例会 一般質問

□質問順位及び質問所要時間

6月13日（木）午前10時～	1	金澤大輔	議員	（45分）
	2	倉岡誠	議員	（45分）
	3	湯瀬誠喜	議員	（30分）
	4	笹本真司	議員	（30分）
	5	舘花一仁	議員	（60分）
6月14日（金）午前10時～	6	戸田芳孝	議員	（60分）
	7	丸岡孝文	議員	（30分）
	8	湯瀬弘充	議員	（30分）
	9	兎澤祐一	議員	（45分）
	10	児玉悦朗	議員	（60分）

□質問時間割当表

10:00	10:45	10:55	11:40	12:10	13:00	13:30	13:40	14:40
6月13日 （木）	金澤大輔 （45分）	休憩 10分間	倉岡 誠 （45分）	湯瀬誠喜 （30分）	休 憩	笹本真司 （30分）	休憩 10分間	舘花一仁 （60分）

10:00	11:00	11:10	11:40	12:10	13:00	13:45	13:55	14:55
6月14日 （金）	戸田芳孝 （60分）	休憩 10分間	丸岡孝文 （30分）	湯瀬弘充 （30分）	休 憩	兎澤祐一 （45分）	休憩 10分間	児玉悦朗 （60分）

令和6年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	1	質問者	金澤 大輔	質問所要時間	45 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1	行政の役割について			① 市長は市の行政について、令和5年第4回定例会の一般質問で「行政は時代の要請に応じて必要な役割を果たす使命があるが、行政資源は限られており、市民の多岐にわたる要望に全て応えていくことが難しい時代であり、まちづくりの主体は市民であることの認識の下、オール鹿角で市政を推進していく」と発言しているが、その市民の意見をどのように施策に反映させているか手法を伺う。また、市長が掲げる透明な市政を実現するために、行政の執行権を私物化しないためのチェックをどのように機能させているのか伺う。	
2	道の駅かづのの指定管理料について			① 前回質問をした際に、指定管理料については「状況を踏まえながら検討していく」との答弁をされているが、今回の補正予算には計上されていない。指定管理者が、管理するトイレ棟など利益を生まない公的な部分の光熱費や除雪費が負担になっていると言っているにも関わらず予算は付けず、それでいて赤字経営だと理由を付け、株主権限で強権を発動した。これでは指定管理は成り立たないと思うが、市長の考えを伺う。	
3	熊対策について			① 山菜採りや溪流釣りなど、他県の入山者の遭難の捜索で市民が熊の被害に遭っている。入山規制や誓約書等の規則の表示などではなく、もっと強い効力がある対策は考えられないか伺う。 ② 熊の出没が多発し、市長自ら入山規制を強く呼びかけているが、人を山に誘導する甲岳台の整備が事業として残されたままである。甲岳台は警察官が襲われた事故現場付近であるが、事業はそれでも実行するのか。入山規制・入山禁止や熊への注意喚起を呼びかけながら、熊の生息地の山道整備を行うことは整合性が取れないのではないか。そこに予算を使用するのであれば、箱罾の制作に使用したほうが市民のためになると思うが、考えを伺う。	

令和6年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	1	質問者	金澤 大輔	質問所要時間	45 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
4	N T T 東日本のワデュケーションについて			③ 熊の生態について、これまで事件や報道などを見ると、もはや熊は人の気配や匂い、音も怖がっていない。鉄砲の音と似た爆竹やロケット花火も効果がなく、母熊が見てる前で子熊が人に向かってくるケースもあった。今の熊は狩猟の危険を経験していない世代の熊だと思われることから、我々も思考をアップデートする必要があると考える。 そこで、市内にドローンによる熊の撃退に実績のある企業があるが、ドローンは用途によってサーモグラフィーによる生体の発見や追尾、動画や写真による確認、さらには動物の嫌がる周波数をスピーカーから発し、撃退や近づけない効果を発揮する。猟友会の人材育成も必要だが、今すぐ対応できるドローンを使用した対策として、企業への要請または委託は考えられないか伺う。 また、委託が考えられるのであれば、除雪委託のように予算を措置しての委託は考えられないか、併せて伺う。	
				① 先進的な社会活動に取り組んでいるN T T 東日本とつながりを持てたことは、本市にとって非常に大きなチャンスであるが、今後の展望を伺う。	
				② 昨年度、新潟県佐渡島で実証実験を行い、今年度から鹿角で行うということだが、佐渡島での実証実験はどのような内容であったのか伺う。	
5	まちなかオフィスについて			③ 5万人の社員を抱えられていることから、関係人口やふるさと納税への効果も期待をされているが、ふるさと納税だけでなく、市内の農産物や市内の商品と結びつける方策、また、関係人口として市内のイベントや取り組みと結びつける方策は考えているのか伺う。	
				① まちなかオフィスにウェブマーケティング事業を展開する会社が入居しているが、今後どのような展開を見込み、市としてどのような効果を期待しているのか伺う。	

令和6年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	1	質問者	金澤 大輔	質問所要時間	45 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
6 市長のビジョンについて (1) 産業政策について			② 誘致について、企業の発展と地元雇用、地域経済へ寄与することを望むが、入居したウェブマーケティング事業の会社は、営業職のパートの雇用1人、正社員の採用は3年目以降に3～5人規模の雇用とのことである。この会社との貸事務所の賃貸契約は何年となっているのか伺う。 また、電気・通信料を含めた無料の優遇措置が3年間であることから、4年目以降は家賃や人件費などの支出がかさむことになる。優遇措置の終了とともに撤退された例もあるが、見極めは慎重にされたのか伺う。		
			③ まちなかオフィスの空き部屋数を伺う。また、今現在どういった業種や企業、何社に誘致の売り込みを行っているのか伺う。		
			① 関市長が就任してから3年が経過したが、方向性やビジョン、リーダーシップも見えない。それぞれがどこに向かえばいいのか分からず、組織が分断され混乱を招いていると感じている。今一度、市長のしっかりとした判断とビジョンを伺う。 また、市長が就任してからも、まちの主要商業店舗とも言える企業が多数撤退しているが、この現状をどのように認識し、どのような考えを持っているのか伺う。		
			② 産業振興対策として、どのような考えを持っているのか伺う。		
			③ 商工会商業部会から「鹿角にあったら良い」という市民を対象としたアンケート結果を受けたと聞いたが、その結果は市に対する要望だと考える。それを受けて、市のトップとしての答えが、「意見が具体的でとても参考になった。市のホームページからもアンケート結果を見ることができるようにするなど、情報を発信して起業などにつながることを期待している」という発言では、あまりに他人ごとのように無策だと感じる。市の経済発展を考えなければならないトップとして、あまりにも無責任だと思うのだが、市長の考えを伺う。		

令和6年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.4

順位	1	質問者	金澤 大輔	質問所要時間	45 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
(2) 廃校跡地の利活用について			④ 主要産業がこれといてない本市にとって、農業に力を入れ直すことはこれから重要になってくると考えるが、市の方向性は若い新規就農者の増加を狙いつつ、水田に関しては、継続できる農家とできない農家の選別をしている。これでは年を追うごとに後継者不足による先細りが目に見えているのではないか。兼業農家を増やすとともに、田んぼに関わる人、関わり代を増やして「田んぼの関係人口」を増やす政策が必要だと思うのだが、市長の考えとビジョンを伺う。 ⑤ 農業を産業としてやっている地域とやれていない地域の差は、主にJAの力によるものと思うが、JAでできないのであれば市が主導するしかないと考える。市が掲げる「稼ぐ観光」の資源は産直の農産物であり、市の重要課題である耕作放棄地を減らすことや獣害を遠ざけることも農地を守ることにつながる。何より食料自給率を上げることや物価高騰から生活を守ること農地に行き着くと考えるが、こういった観点から市が主導で農業に力を入れる必要性について、市長の考えを伺う。		
(3) 高校の魅力化について			① 小坂町では町長が率先して小坂高校跡地利用に意欲を持って取り組み、既に2月の段階で町内外の民間の企業や事業者など12団体に声をかけ懇談会を開催しているが、本市の状況について伺う。また市長は跡地利用に対して、どのようなビジョンを持っているのか伺う。 ① 市内3校が統合したにもかかわらず定員割れになっている現状を、高校の存続と地域経済の面からどう捉えているのか。やはり市内から固めつつも、市外からの生徒獲得に市としても乗り出すべきではないのか。 羽後町の高校での給食提供もそうであるが、熊本県立高森高等学校は、公立高校で初となる「マンガ学科」を設けるなど、外からの生徒獲得を狙って、自治体のトップが熱意を持って学校長に働きかけ、タッグを組んで文科省や県教委を動かす例が見られるが、市長には、こういった考えはどのように映っているのか伺う。また、トップとして働きかけて、外から生徒を呼べる魅力的な学校づくりに取り組む考えはあるか伺う。		

令和6年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

						No.1
順位	2	質問者	倉岡	誠	質問所要時間	45 分
質 問 事 項					質 問 要 旨	
1 かづのDMOについて					① 「かづのDMO」について、3 月に小坂町が新たに加入し、本市及び小坂町を区域とする「地域連携DMO」となった。また、4 月には「鹿角観光の推進に関する連携協定」を本市・小坂町・かづのDMOの 3 者で締結したが、「かづのDMO」は今後、小坂町と具体的にどのような連携をしていくのか伺う。	
					② 新たな「かづのDMO」について、本市では地域おこし協力隊を任用しDMOへ配置したとのことだが、小坂町からは人的・金銭的支援などはあるのか。また、職員体制など、地域連携DMOへ移行後の組織における変更点はあるのか伺う。	
					③ 今後さらに拡大すると見込まれるインバウンド需要に対し、広域観光が一つのポイントになると思うが、大館市・北秋田市・小坂町の連携により設立された地域連携DMOである「秋田犬ツーリズム」と「かづのDMO」の連携はなされているのか。なされているとすれば、具体的にどのような連携を行っているのか伺う。	
					④ 市長就任以来、「函館・津軽・秋田広域観光推進協議会」への加入、「八郎太郎三湖伝説に関連する市町村との連携」などをされているが、現実的に秋田県県北エリアでの広域的観光誘客促進が最も効果的であると考え。「秋田犬ツーリズム」へ参加する考えはないか伺う。	
2 消費者行政について					① 投資や副業の勧誘、また、官公庁を装った還付金などの特殊詐欺被害が全国的に増加しており、手口も非常に巧妙化しているが、市の消費生活センターへの市民からの過去 5 年間における特殊詐欺被害並びに関連する相談件数の推移について伺う。	
					② 消費生活センターにおいて、市民からの特殊詐欺被害並びに関連する相談を受けた場合の対応について、具体的にどのように対応しているのか伺う。	

令和6年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	2	質問者	倉岡 誠	質問所要時間	45 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
3 広域連携について				③ 銀行員やコンビニ店員が、特殊詐欺の被害を事前に防いだとの報道もよく聞くが、市内金融機関やコンビニ等店舗と、特殊詐欺被害防止に向けた何らかの連携や協定がなされているものか伺う。 ④ 市は、市民の生命と財産を守る責務がある。特殊詐欺についても、市が率先して広報やホームページなどで、市民に対し一層の注意喚起をする必要があると考えるが、今後の被害防止対策について伺う。 ① 北東北ゴールド構想をはじめ、市長は本市のさらなる発展のため、国・県や近隣市町村との連携を強く掲げているが、既存の広域的な協議会への新規加入や「八郎太郎三湖伝説」に関連する自治体との交流のみが強調され、他の具体的な連携の成果が見えないと感じる。市長就任から3年が経とうとしているが、この間、観光に限らず、市政全般においてどのような広域的な連携を行ってきたのか。また、連携による具体的成果の主なものについて伺う。	

令和6年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位		3	質問者	湯瀬 誠喜	質問所要時間	30 分	No.1
質 問 事 項					質 問 要 旨		
1 J R花輪線の利用促進について (1) 十和田南駅について					① 令和6年4月1日から十和田南駅が無人駅となりトイレも閉鎖されている状態にあったが「トイレを再開することでJ Rと合意した」との発表があった。今後トイレは市の管理になるようだが、駅舎の管理も含むのか伺う。また、含まないのであれば市で管理し、国立公園十和田湖の玄関口として観光名所案内等の窓口を設置しても良いと思うが、市の考えを伺う。		
(2) 花輪線の利用促進を目指した取り組みについて					① 利用促進に対しては以前から課題とされてきたが、今までどのような取り組みがなされ、どのような効果があったのか伺う。また、今後の予定があれば併せて伺う。 さらに以前にも質問したが、利用促進のため高校生への通学支援の検討はしているものか伺う。		
2 農業関係について (1) 耕作放棄地の対応について					① 熊対策で、ツキノワグマ誘引樹木伐採事業費補助金には予想以上の申請があったと聞くが、耕作放棄された農地で、全く手が付けられていない状態で雑木が生い茂り、林のような状態になっているところも見受けられる。付近の方に聞くと、そこに野生動物が隠れているところを見るので何とかしてほしいとの声が聞かれる。耕作されていないなくても自分で草刈り等管理している農地もあるが、全く手が付けられていない農地の対応は、どのように考えているのか伺う。		
(2) 水田活用の直接支払い交付金の対応について					① 5年に1度の水張りが行われていない水田は、令和9年度以降交付対象から除外される。容易に水張りができる農地は対応できると考えるが、長年畑として転作を続けた結果、水路の確保や水張りの対応が困難な農地は今度どのようにしたらよいのか。国の方針ではあるが市としての考え、また今後の対応について伺う。		
(3) 畑地化促進事業について					① 昨年度、畑地に転換された水田は 36.6 ヘクタールであった。これからさらに転換を望む農地も増えると予想されるが、今後の市の対応について伺う。		

令和6年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	3	質問者	湯瀬 誠喜	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
3	今年度の重要施策について		① 今年度は地域の稼ぐ力を高める農業振興と人口構造の若返り、子育て支援のさらなる充実、2030 年までのカーボンニュートラル目標実現、デジタル化の推進を重要施策と位置づけると聞いたが、具体的にどのような取り組みをするのか伺う。		
4	十和田高校跡地の利活用について		① 高校跡地の利用予定については、県から閉校後に方針を決定する予定であると伺ったが、閉校になった今、県から何らかの方針が打ち出されたものか伺う。また、市民から十和田小学校の移設、大学や短大、または専門学校の誘致などを望む声を聞くが、市としての要望を県に届けることができないか伺う。		

令和6年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	4	質問者	笹本 真司	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1 鹿角市観光産業成長戦略「稼げる観光」について (1) かづのDMOの組織体制と果たすべき役割について				① 本市では、観光協会の役割を果たしてきた十和田八幡平観光物産協会が、かづのDMOに統合・一本化され、DMOは道の駅かづのを管理するかづの観光物産公社の中の一部署として、DMO推進室の形態を取っている。 推進室長は昨年度まで、公社の部長が兼務していたが退職され、コロナ禍で民間から派遣されていた方も、昨年度末で任期を終えた。新たに観光コンシェルジュ1名に着任していただいたものの、自身の認識では、専門の司令塔不在、かつマンパワーも不足しており、今ある業務を回すのに手一杯で、本来DMOが注力すべきマーケティング戦略や未来への投資が十分果たせている状況ではない。 DMOが独立した組織ではなく公社の1部署として動くことは、DMOの安定した財源を確保したり、相乗効果を狙ったものと理解しているが、目先の収益を上げないDMOは経営的に優先順位が下がり、これに付随したデメリットが目立っていると考える。 公社から独立し、会計・人事も全て独立するとともに、マネジメントに専門性の高い人材を配置し、職員がDMO業務のみに注力できる環境を整え、地域をリードする組織に生まれ変わらせるべきではないか。そうしなければ、「稼げる観光」の真の実現は非常に厳しいと考えるが、市の考えを伺う。	
(2) 地域おこし協力隊制度の積極活用について				① 地域の観光産業関係者の状況のきめ細やかな把握や支援、市の政策の浸透を図るため、地域おこし協力隊制度をさらに積極活用し、鹿角市が小規模自治会のために配置している集落支援員の観光版のような人材を、DMOもしくは産業活力課に複数配置できないか伺う。 また、市の財政的な負担を抑えつつ、広い市域をカバーし、政策やマーケティングの効果を高め、若手の観光専門人材の育成にもつながり、職員も業務に注力できると思うが、市の考えを伺う。	

令和6年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	4	質問者	笹本 真司	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
2 都市間公共交通について				① 市役所周辺は、総合病院や警察・消防等の行政組織が集中している。盛岡と大館を結ぶ高速バスは、鹿角八幡平 I C から大館までは一般道を利用するが、鹿角花輪駅でのバス接続も良い状況ではなく、市役所付近にも停車するよう要望する考えはないか伺う。 ② 現在、青森～盛岡を結ぶ高速バスは花輪 S A に停車、弘前～盛岡間を結ぶ高速バスは花輪 S A でトイレ休憩となっている。花輪 S A から鹿角市内への公共アクセスはなく、自家用車のない一般観光客等は非常に利用しづらい。また、弘前からのバスが市内で乗降できるようになれば、北東北で最大級の路線・利用者数を持つ青森空港への公共交通アクセスも飛躍的に向上すると考えられる。 そこで、この 2 路線を花輪 S A ではなく、湯瀬 P A に停車・乗降できるように働きかけができないか伺う。 ③ 湯瀬は温泉地として、市内で最も宿泊者数が多く、令和 4 年の鹿角市統計においては、9.2 万人と 2 位の大湯の 2 倍であり、競争力が高いこと、また湯瀬 P A ・ J R 花輪線の湯瀬温泉駅・国道 282 号・湯瀬温泉郷がコンパクトにまとまっており、花輪にも鉄道及びバスでのアクセスが良好であることから、鹿角花輪駅と並んで市内の公共交通のターミナルとなり得るのではないかと。自家用車を持たないインバウンド・個人旅行客の誘客に、公共交通アクセス性は決定的に重要である。また、八幡平一帯では今年から N P O による自家用有償旅客運送が始まるが、将来的に湯瀬も含まれれば、青森方面と八幡平一体の公共アクセス性も向上し、特に冬季の八幡平への誘客促進にもつながるのではないかと。こうした将来的な戦略も含めた中で、市の考えを伺う。	
3 湯瀬ふれあいセンターの今後について				① 鹿角市公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画では、現在老人福祉施設として運営されている湯瀬ふれあいセンターは、「廃止の上、他用途での整備を検討」となっている。廃止方針の経緯と、他用途での整備の検討状況を伺う。	

令和6年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	4	質問者	笹本 真司	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
4 鹿角高校とまちづくりについて			① 今年度から、鹿角地域の3高校が統合し、鹿角高校が新たに開校した。それに合わせて、今年度予算では花輪～鹿角高校をつなぐ路線の維持及びスキー部と陸上部に在籍する市外からの下宿生への補助制度が設定された。 そこで、最新の花輪～鹿角高校間のバスの利用実績及び鹿角高校の下宿生徒数、並びに所属する部活動の内訳を伺う。また、下宿費用を支援するのであれば生徒を部活動で限定するべきではなく、さらに、食事を含めた下宿環境を一体的に整備することで、特色ある鹿角高校を地域全体でつくっていく中で、市外に住む入学希望者の受け入れ環境を積極的に整備していくべきではないかと考えるが、市の考えを伺う。		

令和6年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	5	質問者	館花 一仁	質問所要時間	60 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1	人口減少対策について				
	(1) 出生数の減少について		① 令和6年3月31日現在の本市の人口は27,417人と合併時の49,691人と比較し、半分近くまで減少している。様々な要因があると考えられるが、本市の出生数が年間100人を切っていることも大きな要因である。近年の出生数と市のこれまでの取り組みについて、率直に成果があったと考えているか伺う。		
	(2) 未来の秋田を支える人への投資について		① 秋田県では令和6年度予算で「未来の秋田を支える人への投資」を全面に打ち出し、「女性・若者の県内定着・回帰に向けた取組」と「人材投資・確保に向けた取組」に力を入れることとしているが、本市では県と協調し、何を行い、具体的に何年後にどれくらいの成果を見込んでいるか伺う。		
	(3) こども家庭センターについて		① 今年度、新たに設置され、子育ての悩みなど複合的な課題に応じた切れ目のない支援体制が整ったが、市のホームページを検索しても何も表示されないなど、積極的にPRする姿勢が感じられない。これまでも各部署が行っていた内容であり、市民は福祉保健センターに行けば相談できることを知っているため周知は不要ということならば、新たに組織を増やす必要性を感じないが、今後、どのように周知を進めていくつもりか伺う。 ② こども家庭センターは今現在悩みを抱えている方などに特化した部署であるとの認識だが、人口減少対策のため、横断的な部署の設置や、若手市職員や女性職員による横断的なプロジェクトチームを設置する考えはないか伺う。		
2	能登半島地震に対する本市の支援について		① 令和6年1月1日に発生した能登半島地震を受け、本市の行った支援内容について伺う。 ② ふるさと納税には災害代理寄附制度がある。被災自治体である石川県七尾市には無形文化遺産山・鉾・屋台行事の構成である「青柏祭の曳山行事」もあり、直接職員を派遣できずとも支援を行うこともできる。相手が困っているときにこそ手を差し伸べることで、その後の深い交流につながっていくと考えられるが、市長から職員に対し何か指示をしたのか伺う。		

令和6年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

No.2					
順位	5	質問者	館花 一仁	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
3 行政サービスの情報発信強化について (1) ホームページ等機能の刷新について				③ 市長は観光面で、潟上市や仙北市などの近隣自治体、また東京都葛飾区との広域連携について進めているが、災害時の連携について取り組む考えはないか、市の考えを伺う。	
(2) オンライン申請について				① 本市のホームページが刷新され、これまでよりも使いやすくなったと感じる反面、市の公式LINEアカウントは単なるホームページの切り抜きとしてしか機能していない。 例えば、ゴミ収集についてLINEの画面上の「ごみ出し」をクリックしてもホームページに飛ぶだけであるが、事前に地域を登録しておくことで、資源ゴミの日のお知らせを表示するような他市で搭載されている機能がなく、使い勝手を考慮せず、単に搭載されているだけの残念な機能となっている。市民が進んで登録したくなるような機能を今後追加する予定はあるか伺う。	
4 鳥獣被害対策実施隊の設立について				① 各種申請について、オンライン申請が可能なものはどの程度あるか伺う。	
				② 子育てや介護関連の認定や申請などの手続きについては、本人のみならずケアマネージャーなど関係者の利便性向上にもつながると考えられるが、導入予定はあるか伺う。	
5 民間人の起用（地域活性化起業人の活用）について				① 長野県須坂市では、鳥獣被害対策実施隊を昨年度設立し、市猟友会会員を任命している。隊員を非常勤特別職地方公務員として市が辞令交付しており、これまで市から委託を受けた猟友会会員が出動し、負傷しても公務災害に認定されないなどの保障面の課題が解決されている。本市でも出動時に負傷する可能性があることから導入を検討してはと考えるが、制度導入の可能性について伺う。	
				① 昨年、市では郷土料理をテーマとしたシンポジウムを開催した。「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されてから 10 年の節目とあって、大変素晴らしい取り組みだったと思う。この取り組みを多くの方に知ってもらうには市長や職員、地元の飲食店の方だけではなく、多くの方を巻き込むべきと考える。長野県高森町では、総務省の「地域活性化起業人」制度を活用し、飲食店情報サイト運営会社と協定を締結し、同社から社員の派遣を受け入れている。本市でも情報発信をさらに強化するため民間人の起用を行うべきと思うが、市の考えを伺う。	

令和6年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	5	質問者	館花 一仁	質問所要時間	60 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
6	(仮称) ふるさと納税戦略室の設置について		① 本市のふるさと納税の寄附額が増加している。ふるさと納税は単純に財政に貢献するだけでなく、地元産業の活性化、知名度向上などにも貢献し、これまでの職員の努力が実を結んだものと評価する。 しかし、自治体間の競争の激化だけでなく、総務省の基準の厳格化など一層の努力が必要だと考える。返礼品の新規開発、掘り起こしによる品数増や、既存返礼品のブラッシュアップなどやることはたくさんあると思うが、これを現体制で行うには無理があるのではないかと。独立した部署、あるいは複数の課によるチーム制など、これまでより独立した体制で行うべきと思うが、市の考えを伺う。		
7	デジタル行政の推進について				
	(1) 教育文化施設のデジタル化推進について		① 各教育文化施設のWi-Fi環境の整備状況について伺う。 ② 大湯ストーンサークル館はもとより、鹿角市鉱山歴史館や先人顕彰館など市内の博物館相当施設においても、QRコードを活用した展示解説の充実への取り組みを行う考えはないか伺う。 ③ 昨年度施行された改正博物館法では、博物館資料のデジタル・アーカイブ化が追加された。市所有の絵画などの美術品を含め、法に基づく博物館ではなくても各施設の収蔵品について詳細な解説や英文での説明を閲覧できるようにするべきと思うが、市の考えを伺う。		
	(2) 電子図書館の運用について		① 秋田市立図書館では令和6年1月31日から電子書籍貸し出しサービスを開始し、これまで約5,000冊の電子書籍を導入している。遠隔地で来館が難しい方の利便性向上につながるほか、24時間貸し出し可能となることで多くの市民にとっても有益だと考えるが、本市でも導入の考えはないか伺う。		

令和6年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	6	質問者	戸田 芳孝	質問所要時間	60 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1	消滅可能性自治体について		① 本年4月、経済界の有識者らで構成された「人口戦略会議」が、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の「地域別将来推計人口」を基に、将来的に消滅する可能性のある自治体を発表した。その中には本市も含まれており、近い将来、深刻な人口減少に直面し、消滅の危機に瀕すると指摘されている。市長はこの現実をどのように認識され、また受け止めているのか伺う。		
	(1) 市長の認識と見解について				
	(2) 「第2期鹿角市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進について		① 「消滅可能性自治体」からの脱却を図るためには、現在進行中の「第2期鹿角市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の着実な推進が求められるが、計画の達成状況について伺う。		
2	熱中症対策について				
	(1) クーリングシェルター（指定暑熱避難施設）の運用について		① クーリングシェルターの実施内容（指定基準・公共施設の指定先、民間施設の応募状況など）について伺う。		
	(2) エアコン助成制度の創設について		① 2021年9月13日の一般質問で、「高齢者や生活困窮者世帯を対象に、エアコン購入代金・設置費用、電気代などのランニングコストについての助成制度を創設できないか」と質問した際、「高齢者世帯のエアコン普及の実態把握とエアコン設置に対する高齢者の意向確認を行いながら、支援の必要性を判断する」との答弁がされている。これに関して、実態調査と意向確認の実施の有無、支援が必要とされる世帯数、計画などについて伺う。		
3	かつの観光物産公社問題について				
	(1) 代表取締役の解任決議に関する市長答弁について		① 昨年12月14日の代表取締役の解任決議に関する一般質問で、関市長は、「ほかの株主からの反対はなく、決議されたものと認識している」と答弁された。しかし、総会議事録では、畠山社長は解任を拒絶し、株主を代表した役員が反対の意思を示している。事実と異なることが明らかであり、発言の訂正と謝罪を求めたいがいかがか。		

令和6年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	6	質問者	戸田 芳孝	質問所要時間	60 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
(2) 市長発言に関する調査について			① 自治体首長の発言は、地域全体に大きな影響を与えるなど、その責任は極めて重大である。発言には慎重さと正確性、透明性が強く求められるが、この点について市長の見解を伺う。 ② 5月9日に「かづの観光物産公社（以下、公社）」に対する一連の発言をめぐり、市長の参考人聴取が行われたが、市民からは、具体的な根拠が示されないことに対して疑問の声が上がっている。調査は進行中であるが、これまでの結果を踏まえて、以下の事項について伺う。 (ア)「長期借入金 5,000 万円を借り入れた結果、第 28 期の貸借対照表で約 1 億円の赤字になっております」との発言について、市長は「赤字とは一般的な概念で、分かりやすい表現をした」と説明している。財務諸表上の経営成績に基づかない発言だとすれば、撤回すべきと考えるがいかがか。 (イ)「プラザからは、約 1 割近い高い仕入れ値ではなかったかと」との発言について、その根拠となる資料は提出されていない。しかし、確信をもって明確に指摘された以上、データや統計にも基づく具体的な根拠を示さない限り、この発言の信憑性は低く、論理的に無効とみなされるが、市長の認識を伺う。また、仕入れコストが高いと指摘されることで、公社の信頼性や評判が損なわれ、顧客離れにもつながることも懸念されるが、この点についての考えを伺う。 (ウ)「プラザに加入していない業者が公社に商品を納入することが困難な状況が継続しております」との発言について、どのような業者がどのような理由で納入が困難なのか、具体的な事例を伺う。 (エ)「店頭価格調査をこの間ちょっとしております」「店頭価格調査はしております」との発言に対して、調査の範囲とその期間及びその結果について伺う。		
(3) 市長の責任とリーダーシップについて			① かづの観光物産公社（第三セクター）の経営に関しては、市も一定の責任を有しており、同時に現市長としての責任も問われるものとする。また、市長であれば、混乱を招かない的確なリーダーシップが求められるが、これらの点について、市長の認識と見解を伺う。		

令和 6 年第 4 回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	7	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1 2030 ゼロ・カーボンシティ達成への取り組みについて (1) かづのパワーとの関係について				① かづのパワーが昨年度に続き 2 期連続の黒字となったと報じられた。電力仕入れの価格の安定と事業の内製化によるものだが、事業開始後 1 年足らずで電力仕入れ価格の高騰により事業休止となったかづのパワーへの支援については、当初議会や市民から強い懸念が示されていたが、今や鹿角市 2030 ゼロ・カーボンシティの実現には欠かせない事業者となりつつある。かづのパワーへの今後の期待などを伺う。 ② 6 月 17 日から募集の始まる環境省の「脱炭素先行地域（第 5 回）募集」へ応募されると聞いているが、まさに「行政、企業、市民が共につくり支える脱炭素社会の実現」が可能な地域が選ばれる。そのためには、今かづのパワーは事業者向けの電力供給が中心となっているが、今後は一般家庭への供給と家庭用太陽光発電からの電力仕入れを積極的に行うことが求められると考えるが、応募に当たり、市民が関わる電力の地産地消について、市の考えを伺う。	
(2) 「令和 6 年度 鹿角市省エネ家電購入支援補助金」について				① 先月募集を行った「令和 6 年度 鹿角市省エネ家電購入支援補助金」は、抽選が行われるほどの応募があり、市民の本施策への関心の高さが表れたと思えるが、この結果をどのように捉えているのか伺う。 ② 支援補助金について「補助対象経費に 2 分の 1 を乗じて得た額（1 世帯につきエアコン、冷蔵庫それぞれ上限額 10 万円）」としているが、県や電力会社で実施している省エネ家電買い替え補助金制度に比べ非常に高額な印象がある。補助上限額 10 万円の設定根拠と、品目をエアコン・冷蔵庫に限定した理由について伺う。 ③ 補助対象が世帯単位で、エアコン・冷蔵庫それぞれの買い替えに対するものとしており、両方が対象となれば 20 万円が補助上限額のようなが、世帯によってはどちらか片方のみの応募の場合もあったとすれば、公平性から抽選は製品ごとに行われたと考えるが、抽選方法について伺う。	

令和6年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	7	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
(3) 宣言から2年経過後の庁内各部署での取り組み状況について				① 市長が2030ゼロ・カーボンシティ宣言をしてから2年以上が経った。宣言後の議会での一般質問で何度か「企業であればトップの宣言は社運がかかるもの」との趣旨の質問を行ったが、目的達成への取り組み状況について、特に市民に対する働きかけの状況を、庁内の各部署ごとに伺う。	

令和6年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

No.1									
順位	8	質問者	湯瀬 弘充	質問所要時間	30 分				
質 問 事 項				質 問 要 旨					
1 教育環境の充実について (1) I C T教育（タブレット端末の使用）について (2) 登下校時の熊対策について (3) 教育環境について				① タブレット端末の使用により、教育の向上はどれほど図られているのか、実際の学力の比較とその考えを伺う。					
				② 具体的な効果が出るまではまだ課題があると思うが、効果的な活用について今後はどのような考えがあるか伺う。					
				③ I C T教育の環境が教職員の負担にはなっていないか。また、その活用で業務改善は図られているか併せて伺う。					
				① 今年度も市街地への熊の出没が多くなりそうな傾向だが、現在の通学路での対策で満足と考えているか。また、その具体的な対策も併せて伺う。					
				② 登下校の時間帯によって、サーモセンサー付きのドローンを使用しての通学路付近の警戒なども検討できないか、考えを伺う。					
				③ 熊鈴の効果はどれほどあるのか。逆に熊が近寄ってくる可能性はないか、考えを伺う。					
				① 今年の夏も暖かい空気に覆われ、気温が全国的に高いと予想されているが、現在の校舎内における空調整備の進捗度はどれほどか伺う。					
				2 マイナ保険証について (1) 保険証の利用と今後について				① 市民におけるマイナ保険証の現在の保有枚数率及び利用率について伺う。	
								② 全国の医療機関などでトラブルが相次いでいるという情報もあるが、本市では医療機関や市民からのマイナ保険証を利用した際のトラブルの報告はないか伺う。	
								③ マイナ保険証を取得する予定のない方は、資格確認書があれば令和 6 年 12 月 2 日以降 5 年間は有効であるとのことだが、有効期間が切れた後、この方たちはどのような対応をすればよいのか伺う。	

令和6年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	9	質問者	兎澤 祐一	質問所要時間	45 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1	大規模災害に備える携帯トイレ等の備蓄の推進について		① 大規模災害に備えた「携帯トイレ」、「簡易トイレ」、「マンホールトイレ」の本市の備蓄の現状と、今後の方針について伺う。 ② 介護や障害福祉施設における携帯トイレ等の備蓄について、状況を速やかに確認し、備蓄を支援していくべきと考えるが、見解を伺う。 ③ 能登半島地震を機に、全国の自治体で「トイレトレーラー」導入の動きが出てきている。本市でも積極的に整備を検討すべきと考えるが、見解を伺う。		
2	学校における円滑な健康診断のための環境整備の推進について		① 本年1月22日付で、文部科学省から児童生徒が安心して受けられる「健康診断」に対する通知が出ているが、市内の学校の健康診断の状況と、今回の通知を市内の学校に周知しているのか伺う。 ② 文部科学省では自治体に対して、地域の医師会と健康診断の実施方法を協議・周知するように求めているが、本市では既に協議したのか、または今後していくのか伺う。		
3	RSウイルス感染症予防ワクチンについて		① 高齢者のRSウイルス感染症ワクチンへの今後の対応について伺う。 ② 乳幼児のRSウイルス感染症への対応について伺う。		
4	HPVワクチン接種について		① 令和4年4月から積極的勧奨が再開され、キャッチアップ接種が期間限定で行われているが、今後の対応について伺う。 ② キャッチアップ接種は今年度3月までとなっており、初回接種を9月まで行わないと3回の接種完了ができない。さらなる情報の提供ができないか伺う。		

令和6年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	9	質問者	兎澤 祐一	質問所要時間	45 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
5	難聴者のための軟骨電動イヤホンについて			① 現状、本市の庁舎窓口では、耳が聞こえづらい市民の方に対して、どのような対応をされているか伺う。 ② 本市の庁舎窓口でも軟骨伝導イヤホンを導入してはいかがか。	
6	「子ども子育て」支援に向けたさらなる充実について			① 事業者意見に伺ったところ、収入の安定について、「産休による収入の減少を抑えたい」、「支給率を8割程度に増やしてほしい」、「子供の病気等の休みに対し、給料が減らない制度の創設」、「育児休業等への補助金支援」などの声があった。これらへの対応について考えを伺う。 ② 病児、病後児保育のさらなる充実や、病気児童の一時預かり、利用料金の行政負担など、支援の拡充希望も多くあったが、今後の対応について伺う。 ③ マンパワーの支援をしてほしいとの声も多かった。例えば、臨時職員派遣制度や行政運営による期間限定人材派遣事業の実施などが挙げられたが、これについて考えを伺う。	
7	困難な問題を抱える女性への支援の充実について			① 困難な問題を抱える女性のうち、女性自立支援施設への入所による支援が望ましいと考えられる女性の3割が入所に繋がっていない。理由として、スマートフォンや携帯電話の使用制限を挙げる声がある。情報発信機能等により、DVやストーカー等の加害者が被害者の居場所を特定する懸念があることから、一時保護施設及び婦人保護施設において、携帯電話等の利用が一律に制限されていたようである。 新法の趣旨に鑑み、被害女性の自立に向けた求職活動や、学校・職場への復帰などに際しての連絡など、社会参画に不可欠なことから、安全性を考慮した通信機能の新たな運用方法の検討と共に、「地域から隔離された保護施設」だけでなく「社会参画を育む保護施設」の設置が求められると考えるが、市の見解を伺う。	

令和6年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	9	質問者	兎澤 祐一	質問所要時間	45 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
			② 女性相談支援員の配置については十分とは言えず、併せて、在職年数が3年未満の相談員が都道府県で38.2%、市では38.8%を占め、今後、質・量ともに充実が求められている。また、相談員の深刻な問題に向き合うという重責を担うことから、支援員の雇用については不安定な状況であることも問題視しなければならない。女性相談支援の充実のために、市ではどのように対応するのか伺う。		

令和6年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	10	質問者	児玉 悦朗	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1	人口減少対策について			① 人口減少は国全体の問題であるが、本市人口は現在約2万7,400人まで減少した。市長就任時には約2万9,000人であり、約1,000人減少したことになる。減少することは止められないこととして、減少したことで本市の在り方に大きな変化を求められていると感じる。大湯保育園の閉園決定や尾去沢小学校の複式学級化、消防団員の減少や自治会活動の縮小など、人口減少が原因かどうかは分からないが、簡単には解決できない問題が山積している。このような状況をどのように改革して、どのような鹿角市にしていくのか市長のビジョンを伺う。	
2	令和6年度当初予算について			① 令和6年度の予算編成に当たり、最も力を入れて取り組む施策と予算の配分について、具体的な目標があるか伺う。 ② 令和6年度予算の編成に当たり、市長の5つの公約と第7次総合計画との調和を図りながら計画を策定するとあったが、市長の公約である「国立公園の自然、鹿角街道の歴史、大湯環状列石、史跡尾去沢鉱山、大日堂と錦木塚、八幡平・湯瀬・大湯の温泉、花輪ばやしや毛馬内盆踊りなどの祭り、スキー・駅伝などのスポーツ、伝説と民話、郷土料理と土産を組み合わせ、滞在して楽しめる「世界遺産のまち」をつくります」、「統合した学校跡に「森の学校」や「鹿角伝説館」をつくり、市民の学びや観光にも生かします」について、予算へどのように反映させたのか伺う。	
3	コンパクトシティ構想について			① 他市ではコンパクトシティ構想という試みがあるが、本市でこの構想を具体的に取り組むことができるか、市長の考えを伺う。	
4	農業政策について			① 本市の農業従事者の高齢化によって、農業生産力は減少していると思う。水田の大規模ほ場整備事業でかろうじて稲作の大規模化、機械化が始まってきたが、野菜や果樹、畜産などの永続的な営農については大変な危機感を抱いている。この後5年も経てば農業従事者は半減するのではないかと危機感もあるが、本市農業政策における重点施策とその予算措置について伺う。 ② あきたこまちRの特長や利点を農家や消費者に理解していただく努力が必要と考えるが、市としての考えを伺う。併せて、淡雪こまちをはじめ、ほかの品種はカドミウム対策品種なのか伺う。	

令和6年第4回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	10	質問者	児玉 悦朗	質問所要時間	60 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
5	観光政策について		③ 本市ブランド作物の作付け面積や、かづの牛の肥育頭数が大きく伸びていない原因と今後の対策について伺う。		
			④ 小坂町では町が積極的に関わってブドウづくりからワインの製造をしている。本市も農業に対してもっと深く関わるべきと思うが、考えを伺う。		
			⑤ 令和4年8月に発生した大雨による災害復旧について、工事完了まで時間がかかったが、この間、額のあった農地では作付けができない事態となった。完全復旧まで時間がかかった原因と今後の対策について伺う。		
6	鳥獣被害対策について		① 「世界遺産のまち鹿角」をアピールする方策、観光客増加につながる方策についての計画を伺う。		
			② 本市観光行政において、かづの観光物産公社の役割は観光施策の推進役として位置付けられていたと思うが、令和5年度において本市DMOとして何をどのように実行したのか、また、成果と問題点は何か伺う。		
			③ 十和田湖甲岳台へのアクセス道整備の進捗状況を伺う。		
			① 熊の出没対策として栗や柿の木などの樹木伐採に対しての助成をしているが、当初予算を大きく超える事態となった。それだけ市民の関心が高いと実感しているが、本対策の金銭的な見通しを伺う。また、熊が出没しないための対策について、ほかに実施していることがあれば伺う。		
			② イノシシ対策とカモシカ対策について、実施していることがあれば伺う。		
			③ 5月18日に熊による人身事故が発生した。2人の警察官が負傷したこともあり、県ではその日の夜8時に緊急対策会議を開催し、知事も含めて対応を協議したと聞いている。この事故に関して、本市ではどのように対応したのか伺う。		